

維新・馬場代表の暴言

日本維新の会の馬場伸幸代表が日本共産党について「日本から抜けたかったらしく」と発言したことに対する批判です。

「朝日」25日付は、「他党支持の有権者も否定」の見出しを立て、法政大大学院の白鳥清教授（現代政治分析）の「考え方の違う他の意見も尊重するのが民主主義のるべき姿で、馬場氏の発言は他党、ひいてはそれを支持する有権者をも否

定するものだ」というコメントを掲載しています。

25日の文化放送「天竹まじか ゴールデンラジオ」で大竹氏は、「民主主義をどう思ってらるのか。共産党を支持する人がいて、何万人、何十万人が選挙で投票している名乗りを上げている」と苦言を呈しました。

「朝日」25日付は、「他党支持の有権者も相次いで批判しています。

メディア・政界から批判

有権者をも否定／撤回すべきだ

政党」と書く。これだけしかいんやよ」と批判。番組ワメンテレビの酒井綱一郎「日経ビジネス」元編集部長は「政策で議論すべきで、発言は撤回すべきだ」と述べました。

また酒井氏は、馬場氏の「第2国民党でいい」との発言について、「本音が出た。国民党の『別動隊』と書いた」と指摘し、森本氏も「野党から決別した」と指摘し、森本氏も「野党から決別した。与党のいわば下部組織だ」と応じました。

また酒井氏は、馬場氏の「第2国民党でいい」との発言について、「本音が出た。国民党の『別動隊』と書いた」と指摘し、森本氏も「野党から決別した」と指摘し、森本氏も「野党から決別した。与党のいわば下部組織だ」と応じました。また、同僚の原口一博元総務相も自身のツイッターに「共産党はいなくなつたらいい政党」と言う者が公党の代表である事に強い危機感を禁じ得ません」「民主主義そのものを否定する意こうど黙つていてはならぬ」と投稿しました。

立憲民主党の畠田克也幹事長は25日の記者会見で、「いろいろな意見があって、一致点を見つけていくのが民主主義の最も基本のこと」。全くそのことが分かっていない。

た。